

大雪被害報告

2月14日から15日にかけて福島県沖を発達しながら進んだ低気圧により、関東地方から東北南部の太平洋側を中心に記録的な大雪となり、村内でもパイプハウス倒壊等大きな被害が発生しました。



①電線に引っかかる倒木 ②雪の重みで崩れたビニールハウス ③懸命な除雪作業が行われた

被害確認件数 (単位：戸) 2014年3月24日調べ

住宅	農業施設	その他(物置など)	合計
25	247	244	516

2月14日～27日までの記録

27日(木)	20日(木)	19日(水)	18日(火)	17日(月)	16日(日)	15日(土)	14日(金)	2月
大雪災害対策本部解散	川俣1原町線通行止め解除	村内停電 8戸 除雪作業を継続	見守り隊帰宅困難者24名 いちばん館に宿泊	村内停電 約960戸 除雪作業実施 飯館村立幼・小・中学校休校	村全域通行止め	除雪費用1億円を追加し、ただちに除雪・復旧復興にあたる	飯館村役場に大雪災害対策本部設置 関東地方から東北南部の太平洋側を中心に、記録的な大雪	

入札結果をお知らせします。

入札日 / 3月26日 (単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
平成25年度 子ども・子育て支援システム構築業務	5,355,000	(株)福島県中央計算センター	平成26年3月末
平成25年度 飯館村交流センター建設工事基本設計業務	13,650,000	(株)久慈設計 東京支社	平成26年3月末
平成25年度 積算線量計購入	13,597,500	(株)千代田テクノル福島復興支援本部	平成26年3月末

入札日 / 3月31日 (単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込み)	請負業者	完成予定
平成26年度 緊急雇用創出事業 全村警備保障業務(42局地区)	13,744,080	セコム(株)	平成27年3月末
平成26年度 緊急雇用創出事業 全村警備保障業務(43局地区)	8,748,000	福島総合警備保障(株)	平成27年3月末
平成26年度 一般廃棄物収集運搬処理処分業務	9,180,000	目黒 欣児	平成27年3月末
平成26年度 いいたて全村見守り隊健康維持活動業務	3,456,000	特定非営利活動法人 BHNテレコム支援協議会	平成27年3月末
平成26年度 いいたて全村見守り隊員用放射線量測定機器校正業務	1,425,600	(株)JBジャパン・ブランド	平成27年3月末
平成26年度 仮設直売所「なごみ」運営事業業務	16,330,000	飯館村直売所連絡協議会	平成27年3月末
平成26年度 飯館村応急仮設住宅浄化槽保守点検業務	5,616,000	日東産業(株)	平成27年3月末
平成26年度 伊達東応急仮設住宅浄化槽維持管理業務	1,944,000	協同組合県北地区浄化槽管理協会	平成27年3月末
平成26年度 いやしの宿いいたて施設保守業務	2,052,000	(株)NTTファシリティーズ 東北支店	平成27年3月末
平成26年度 一時帰宅支援業務	19,776,960	(株)桜交通	平成27年3月末
平成26年度 一時帰宅用トイレ清掃業務	3,875,040	(株)東武 相双支店	平成27年3月末
平成26年度 飯館村簡易水道事業 施設維持管理(浄水管理)業務	4,968,000	理水化学(株)仙台支店	平成27年3月末
平成26年度 飯館村簡易水道事業 施設維持管理(日常管理)業務	7,344,000	(有)北原商店	平成27年3月末
平成26年度 飯館村簡易水道事業 水質検査及び保菌検査業務	5,076,000	福島県環境検査センター(株)	平成27年3月末
平成26年度 飯館村農業集落排水 処理施設維持管理業務	7,020,000	福島県土地改良事業団体連合会	平成27年3月末

こころのぽけっと

こんな「心の教育」も

ふしぎなもので4月の声を聞くと自然と心が新たになった気分です。仕事に取り組みます。特に、幼稚園・小学校・中学校さらに高校の入学式に連日出席させて頂いて頂いてるゆえ、なおのこと「新たなスタート」として思いを強くして頂いてるようです。ところで、いずれの入学者名簿を見ても読める名前には少なく読めない名前の方が多くなっているような気がします。

しかし、どのような名前にしろ両親が考えに考えぬいて思いを込めてつけてくれた名前であることに変わりはありません。生まれた時の親の思いやどのような思いを込めての命名なのか、子どもはほとんど知るよしもないでしょうし、親の方で話すことも少ないはず。

先日、新任教職員着任式の折に「学力向上」はもちろんのこと、「心の教育」をしっかりと欲しているなどなまいきなお願いをしたところです。自分がいかに望まれて生まれてきた存在であり、祝福され愛されて育てられた存在であることを知り、「命の大切さを知り、さらに親に感謝でき、もっと優しく、強く生きていける子ども」になるのではないだろうかという思いが湧きました。

そういう意味で学校の授業の中にこのようなことを入れていくことは「最高の心の教育」ではないかと思っておりますが、いかがでしょうか。

赤ちゃんを抱いた時、陣痛の痛みや苦しみを一瞬にして忘れてしまったという母親、赤ちゃんの顔を見て涙を流してしまっただという父親、「本を買って本気になって勉強してつけた名前なんだよ」とかの話、子どもの心にすっきりと入っていくのではないだろうか。

平成26年4月9日 飯館村長 菅野 典雄